

# 折尾まちづくりビジョン

## 【概要版】

～ 「人が主役、やさしさいっぱいのもち」を目指して ～



平成 20 年 6 月

おりお未来21協議会

## はじめに

現在、折尾地区の再生と活性化を図るため、折尾地区総合整備事業が進められています。

私たちは、この機会を逃すことなく、新たに生まれ変わるまちを、自分たちの手でより良いものにしていくために、住民主体のまちづくりに取り組んでまいります。

このため、私たちが目指す折尾地区のまちづくりの目標を「折尾まちづくりビジョン」として定めることとし、平成 18 年度からその策定に取り組んできました。

平成 18 年度は、折尾地区の特性・問題点を明らかにしたうえで、私たちが目指す折尾地区の将来の姿を「人が主役、やさしさいっぱいのもち」という言葉と、まちをイメージする「4 つの柱」で表現し、さらに、まちの実現に向けて具体的にに取り組んでいくための「7 つのテーマ」を設定しました。

また、平成 19 年度は、さらに専門的に検討を行うため、4 つの専門部会を発足させました。

本ビジョンは、学識経験者等の専門家を交えた各専門部会での議論を大切にし、その報告を踏まえてとりまとめたものであり、折尾に住んでいる私たちが望んでいる将来の姿やまちづくりの基本的考え方を描いたものです。

この折尾への熱い思いを実現するためには、私たちだけでなく、事業主体である北九州市、鉄道事業者、さらに折尾地区の企業や学生など、まちづくりに関わるすべての人々が協力し合い、まちづくりを進めていく必要があります。

よって、今ここに私たちは提言します。

まちづくりに関わるすべての人々に届くことを期待して。

平成 20 年 6 月 おりお未来 21 協議会

# 1. 提言

折尾の住民として、今後、北九州市と協働で「人が主役、やさしさいっぱいのもち」を目指すために、下記のことを提言します。

## ① 商業を中心とした賑わいの創造に関する提言

**住民には快適・安全・便利な「生活空間」と、訪れる人には好奇心を満たす「都心空間」が調和する『交流・生活都心』を目指します。**

- 高架下、市場街区、駅南北の新たな賑わいの核（駅北側：折尾警察署・土木事務所跡地、駅南側：駅前広場～2号公園～堀川沿い）を結び、商業を主とした賑わいの軸（歩行者の回遊動線）を形成する。
- 高架下空間は、周辺街区との連携や賑わいの連続性に配慮して利用形態を検討する。
- 市場周辺のエリアについては、折尾のまちづくりにとって重要なエリアであり、高架橋～堀川（駅北側）の一連の公共空間と市場の立地する街区が一体となったにぎわいの空間を目指す。
- 堀川（駅南側）の歴史的な経緯も踏まえ、水辺を活用した良好な環境の空間形成を目指す。

## ② 公共施設のデザインや景観形成に関する提言

**歩行者空間を大切に「歩いて楽しいまち」の実現を目指します。**

- 駅前広場、高架橋、街路、公園などの個別の施設のデザインがバラバラにならないように、一貫した方針でデザインする。
- 高架橋の構造体と付属物（雨水の配管、架線柱、その他）と高架下空間が一体となって統一感のあるデザインとする。
- 南北駅前広場とも、改札口を中心とした歩行者動線のわかりやすさ（視認性）や、歩行者の回遊性、溜まりの空間の確保などに配慮した駅前広場の計画とする。
- 北口は、交通機能だけでなく、潤いのあるデザイン・計画とする。
- 南口は、駅前広場、2号公園、堀川沿いなどとの連携や一体性を大切にして、魅力向上に寄与するデザイン・計画とする。
- 主要な街路は、折尾のまちを印象づける重要な路線であるという認識で、歩いて楽しい街路空間を実現していく。
- 歩いて楽しい街路空間を実現していくためには、公共施設としての道路のみならず、沿道の敷地・建物のつくり方・使い方のルールも必要である。

## ③ 歴史的建造物の保全と活用に関する提言

**歴史的建造物を活用したまちを目指します。**

- 現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する。
- シンボルとなる部材や歴史を伝える部材を活用し、歴史性の継承に優れた、堀川及び現駅舎に最も近接した南口駅前広場での保全を望む。
- ねじりまんぼを含む東側三連の保全・活用を図る。
- ねじりまんぼの文化と技術を継承できるような方法で、貴重な土木技術の伝承が図られる場所に保全し、活用を図る。
- その他の歴史的建造物については、地域で長い間共有化されたものは、できるだけ現状に近い形で保全に努めるが、今後、所有者等の意向を十分に確認して取り扱う。

## ④ すべての人にやさしく、安全・安心なまちづくりに関する提言

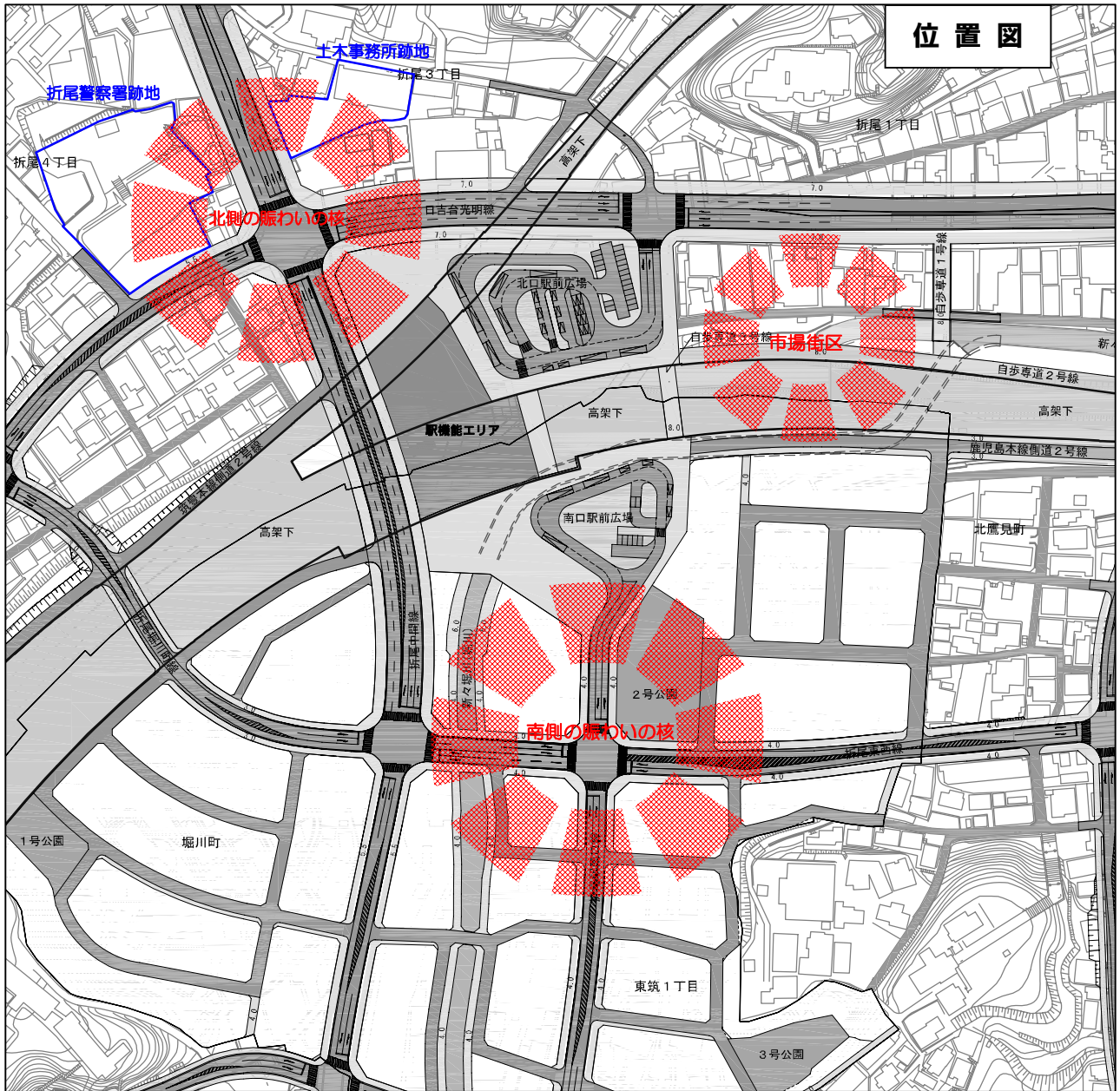
**「人が主役、やさしさいっぱいのもち」**

**年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず、だれでも安心して、自分の意思やペースで出かけられるまちを目指します。**

- ユニバーサルデザインのまちを実現していくために、計画段階からわかりやすく情報提供を行い、より良いハードの充実を目指す。
- 駅周辺には、生活者・来訪者の暮らしの向上や交流・文化活動ができる場所を確保する。
- 駐車場・駐輪場としての利用が想定される高架下空間や、南北通路については、不安な場所にならないよう、防犯性と快適性に配慮した空間とする。

## より良い折尾のまちづくりの実現に向けて

- 折尾地区総合整備事業は長い期間を要する事業であり、工事期間中も快適に過ごすことができ、完成時に暮らしやすい街となっているためには、関係者が知恵を出し合って、まちづくりの進め方を工夫して頂きたい。
- 今後、具体化される事業については、「おりお未来21協議会」と情報を共有し合い、上記の提言をもとに進めていくことをお願いしたい。
- 駅や高架橋については、折尾のまちづくりの顔となるため、今後は、市のみならず、鉄道事業者も含めて三者の連携を図ることをお願いしたい。



## 2. 折尾まちづくりビジョン策定の経緯

本ビジョンは、平成 18～20 年度にかけて、以下のような取り組みを経て策定したものです。

### ① 平成 18～19 年度

平成 18～19 年度は、以下に示すように、おりお未来 21 協議会でのアンケートやワークショップなどを開催し、まちづくりの方向性として、「まちづくりの目標やイメージ」、「まちづくりの主要テーマ」を設定し、折尾まちづくりビジョンの中間とりまとめを行いました。

開催年月日	内 容
平成 18 年 10 月 24 日	○まちづくりビジョン策定について ・スケジュール・検討項目 ・会員へのアンケート調査 ほか ○折尾地区総合整備事業進捗状況報告
平成 19 年 2 月 13 日	○折尾まちづくりビジョンについて (将来像についてのワークショップを開催)
平成 19 年 3 月～4 月	○折尾まちづくりビジョン (中間) とりまとめ

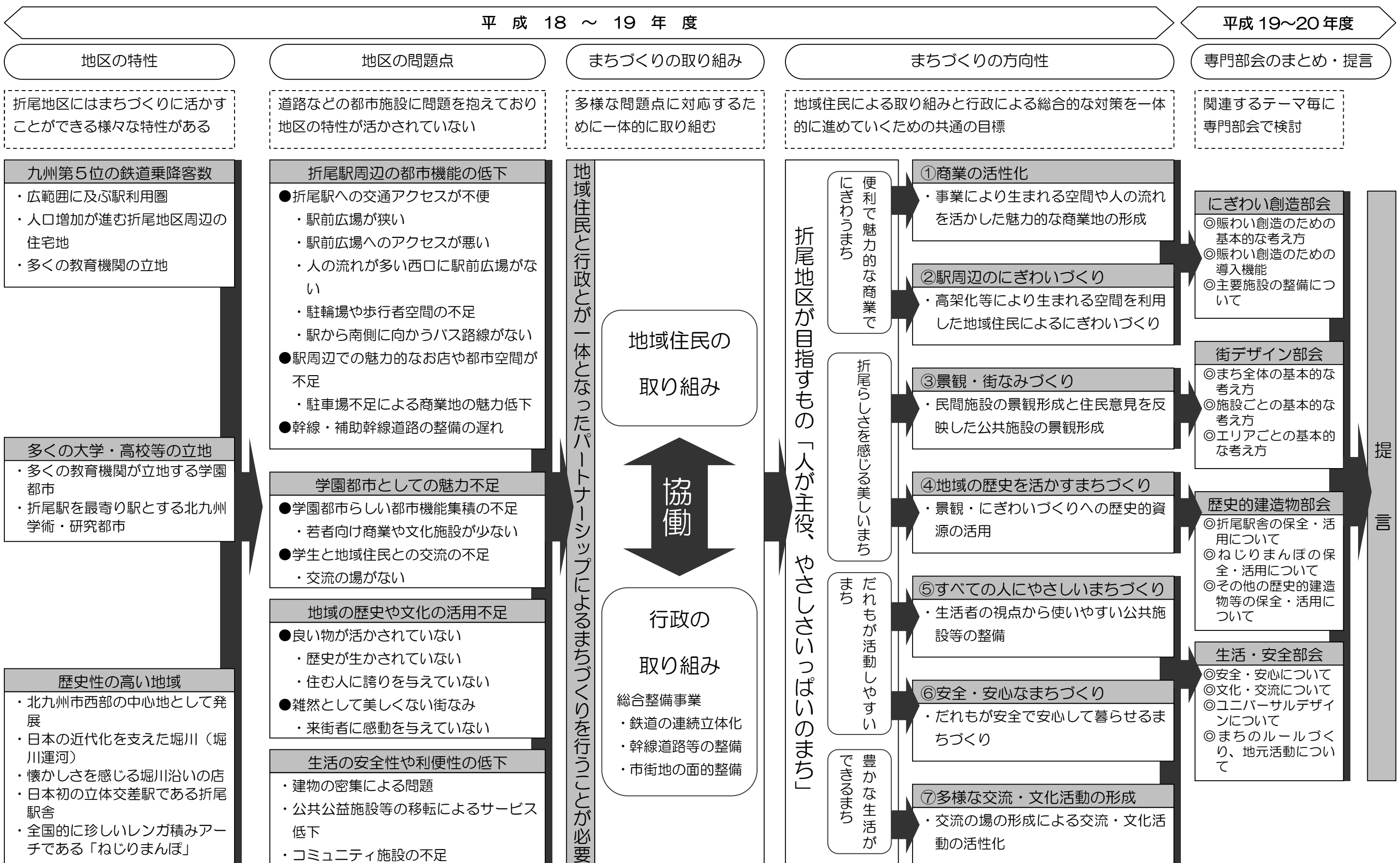
### ② 平成 19～20 年度

「まちづくりの主要テーマ」について、関連する分野ごとに、「にぎわい創造部会」、「街デザイン部会」、「歴史的建造物部会」、「生活・安全部会」の4つの専門部会を設置しました。

以下に示すような、各部会での検討を経て、おりお未来 21 協議会として、折尾まちづくりビジョンの最終とりまとめを行いました。

開催年月日	内 容
平成 19 年 5 月 14 日	○4部会合同専門部会・第1回専門部会
平成 19 年 6 月～20 年 2 月	○各専門部会での検討
平成 20 年 3 月 7 日	○専門部会検討状況報告会【中間】
平成 20 年 3 月～4 月	○各専門部会での検討 (にぎわい創造部会・街デザイン部会・歴史的建造物部会・生活安全部会)
平成 20 年 5 月 15 日	○専門部会報告会【最終】
平成 20 年 5 月～6 月	○折尾まちづくりビジョンとりまとめ
平成 20 年 6 月 24 日	○折尾まちづくりビジョンの報告

### 3. 折尾まちづくりビジョンの体系



## 4. 今後の取り組み

---

「おりお未来 21 協議会」では、私たちが目指す折尾地区のまちづくりの目標を、「折尾まちづくりビジョン」として定めることとし、折尾の将来の姿やまちづくりの基本的考え方を描きました。

このビジョンには、私たちの折尾をより良いまちにしようという気持ちがたくさん詰まっています。しかしながら、なかには実現するために様々なハードルをクリアする必要があることも、また事実です。

今後はこのビジョンを基に、個別具体的な課題に対してより深く議論し、協議会のなかで実現に向けての知恵を出し合い、様々な課題を解決するため、北九州市とパートナーシップによるまちづくりを進めていきます。

また、私たちが継続して折尾のまちづくりについて勉強していくことが重要であり、私たちができることからまず始めようと考えています。

折尾のまちづくりは、これからも 10 年以上続く長期的な事業です。私たち「おりお未来 21 協議会」は、このビジョン策定や提言でその役目を終えることなく、時代の流れとともに変貌するまちの姿を見守りながら、その時々に必要な声を発信していきます。

今後とも地域住民の窓口として、市と協働で継続的に折尾地区のまちづくりの実践を図る役割を担っていきます。